

第3回キールボート強化委員会議事録

2011年7月21日(木)

ちよだプラットフォームスクウェア 402 会議室

◆委員長：中澤信夫 司会：久保田悟 事務：熊谷一樹 金子純代 村井梨恵 書記：中山遼平

◆出席者(順不同)：児玉萬平 平井淳一 石黒建太郎 古川龍文 稲葉健太 日根野聰弥
上松慮生 小屋忠史 猪上真教 木村大介

◆開会 19:10

◆中澤委員長挨拶

◆初出席者自己紹介

◆議事要旨

①小委員会の目標とスケジュール、メンバー構成について。

第1小委員会(キールボートの人口増)

リーダー：石黒

- ・ 学連の大学生(ディンギーセーラー)のキールボート参入を拡大させたい。
 - ・ 来年、学生マッチレースを開催したい。→ 日本ヨットマッチレース協会(JYMA)にも同じような需要があり協力を打診する。
 - ・ J24などのワンデザインキールボートでの大学対抗戦をしたい。大学対抗とすることで、OBなど周囲の関係者からも盛り上がるはずである。
 - ・ 若手マッチレーサーの育成など、JSAFアメリカズカップ(AC)委員会と協力可能ではないか。
 - ・ 学生レースであることを強みに各種支援やスポンサーを募る。
 - ・ 学連やJYMAと連携がとりやすいメンバー構成にしたい。
-
- ・ インカレを目標とする練習の一貫としてキールボートトレーニングをアピールする方法もある。既に日本経済大学が取り入れている。(平井)
 - ・ イニシャルコストゼロで学生が、プロや社会人など色々なレベルの人と同じキールボートレースで戦える環境があれば、自然とキールボートに目が向くのではないか。(中澤)
 - ・ AC委員会も新たな活動し始めであり、関係者に次回委員会に参加してもえないか。(児玉)
 - ・ 学生だけでキールボートにいつでも乗れる環境を作る。J24の各大学への払い下げ。(稲葉)

第2小委員会(キールボートレースの環境改善)

リーダー：稲葉

- ・ モデルケースとして相模湾での来年の大きなレース日程が重ならないよう調整したい。

- ・ レースの各水域持ち回りでのサーキット化を最終目標としたい。
- ・ ヨットクラブや外洋団体の現状を尊重しながら仲介役となれないか。
- ・ 例えば葉山で、隣接海面で行われる同じような上下レースを統合できないか。
- ・ 具体的なレース日程の設定について、葉山マリーナヨットクラブ（HMYC）が毎年10月に翌年のレース日程を発表し（8月ころ始動？）、それを受けて他のヨットクラブも10～11月には決めていく。ただ、HMYCやディンギーのレース日程は3～4年前から決まっている部分も大きく、そこについては長いスパンでの協議が必要となるかもしれない。
- ・ ヨットクラブや外洋団体と連携がとりやすいメンバー構成にしたい。

第3小委員会（キールボートクラスの目標と強化戦略の策定） リーダー：山田

→ リーダー欠席のため、方針については次回に持ち越し。

- ・ 山田氏が海外でのレース活動が多いため、リーダーの考えをまとめて発信できる補佐役をつける。（久保田）

第4小委員会（ジャパンレースウィークの創設） リーダー：畠山

→ リーダー欠席のため、方針については次回に持ち越し。

②今後の委員会としての活動方針。

- ・ 小委員会ごとに、リーダーを中心に段階的な目標とスケジュールを議論・策定し、メンバー全体で現状の調査・分析や関係団体との協議を進める。本委員会では小委員会の活動を共有し、小委員会間及びJSAF他委員会との協議・協力を円滑化する。来年3月をめどに、JSAFに対する提言及びプロジェクトの実行を目指す。（久保田、日根野）
- ・ 小委員会の目標に沿って、やる気のあるメンバーを募集する。（金子）
- ・ 事務局では、小委員会活動の進捗の確認やメンバーの斡旋、小委員会間で協力できる部分の調整などを担当する。（久保田、熊谷）
- ・ 他委員会と目標が重複する部分では、本委員会が現役のセーラーで構成されていることを生かした活動を進めたい。（中澤）
- ・ リーダー任せにならず、委員会全体で責任を分担していく必要がある。（稲葉）
- ・ 目標によっては、レース日程などプロジェクトを先行して走らせる可能性もある。（久保田）
- ・ テーマとターゲットをさらにしぼっていく必要がある。（木村）
- ・ JSAF他委員会や関係団体からのオブザーバーも本委員会に受け入れてはどうか。（猪上）
- ・ 本委員会のメンバーの構成とバックグラウンド（ヨットに関する経歴）を公開する。（中澤）

◆閉会 21:00

◆次回委員会は未定